

北のとびら

vol. 104

平成27年3月



HOKKAIDO
ARTS FOUNDATION

特集

希望の大地の戯曲

「北海道戯曲賞」

審査員・大賞作品演出家

前田司郎氏に聞く

「北海道戯曲賞に期待すること」

この人に注目

平原 慎太郎

街歩きアート

海辺のまちにキラリと光る

文化の拠点を創り出す人たち

〔浦河町〕

フォト・エッセイ

近藤 良平

表紙作家の紹介

風間 雄飛

●特集

希望の大地の戯曲

北海道戯曲賞

全国に門戸を開き、道内外の劇作家が競い合う形をとることで、次代を担う劇作家を発掘したい。そして優れた作品を提供することで、演劇の楽しさを多くの人に知っていただきたい。その思いから誕生したのが、希望の大地の戯曲「北海道戯曲賞」です。

北海道舞台塾実行委員会（北海道、公益財団法人北海道文化財団）では、平成10年から3ヵ年、北海道戯曲コンクール「北の戯曲賞」を全国から募集し、優れた作品・人材の発掘と育成、創造活動の活性化に取り組んだ経緯があります。

15年の歳月を踏まえ、平成26年度に実施された「北海道戯曲賞」では、10月末までに全国から58作品の応募がありました。二段階の審査を経て選ばれたのは、大賞1作品、優秀賞1作品。平成27年2月にリーディング公演を実施、平成27年度には大賞作品の舞台化に取り組みます。

大賞
『悪い天気』
藤原 達郎（福岡県北九州市）

優秀賞
『乗組員』
島田 佳代（鹿児島県伊佐市）

●その他最終選考に残った作品
『あなたともの語り』 栗飯原ほのか（神奈川県）
『薄暮（haku-bo）』 イトワカナ（北海道）
『ムカイ先生の歩いた道』 加藤英雄（東京都）
『私の父』 戸塚直人（北海道）
『終末の子定』 福谷圭祐（大阪府）

畑澤 聖悟
劇作家・演出家／劇団渡辺源四郎商店主宰

前田 司郎
劇作家・演出家・作家・映画監督／五反田団主宰

斎藤 歩
劇作家・演出家・俳優／札幌座チーフディレクター

土田 英生
劇作家・演出家／MONO代表

第2次審査 審査員
(50音順)

長田 育恵
劇作家／演劇ユニットてがみ座主宰

●特集

希望の大地の戯曲
「北海道戯曲賞」

審査員・大賞作品演出家
前田司郎氏に聞く
「北海道戯曲賞に期待すること」

聞き手／市川浩康（北海道舞台塾実行委員会）



前田司郎（まえだしろう）

1977年生まれ。劇作家・演出家・作家・映画監督・五反田団主宰。2004年『家が遠い』で京都芸術センター舞台芸術賞を受賞。『生きてるものはいないのか』で第52回岸田國士戯曲賞を受賞。2009年には『すてるたび』でベルギーのKUNSTENFESTIVALDESARTSに招聘。2011年、フランス人演出家 Jean de Pange との共同作品『Understandable?』がフランスで上演される。その他、小説家、シナリオライターとしても数々の賞を受賞。2013年、映画『ジ、エキストリーム、スキヤキ』で監督デビュー。

——北海道戯曲賞の審査、そしてリーディング公演の演出、お疲れさまでした。平成26年度の北海道戯曲賞では、全国から集まった58作品のうち、7作品が最終選考に進みました。それぞれにタイプの違う個性的な作品でしたが、審査の経緯はいかがでしたか？

「藤原達郎さんの『悪い天気』は別格、技術的に秀でていて」と、審査員5名の意見が一致していたように思います。優秀賞として島田佳代さんの『乗組員』をあげるところまではすんなり決まりました。本来優秀賞は2作品の予定で、『乗組員』の他に、栗飯原ほのかさんの『あなたともの語り』と、福谷圭祐さんの『終末の予定』が検討対象となりましたが、両作品とも『乗組員』とは明らかな差があったため、1作品のみでの選出としました。

——偶然ですが、大賞・優秀賞ともに九州の作品でしたね。審査でも「北海道の戯曲賞として、北海道らしさをどう考える

か」ということが話題になりましたが、最初の段階で「それは考えなくていいだろう」と。

結局、審査員が面白いと感じた作品を選ぶことが「希望の大地の戯曲」にふさわしいと結論しました。

——例えば九州戯曲賞は、対象を九州で活躍している劇作家に限定しています。私たちも、対象を道内に限る方向性も検討しました。けれどそうすると、誰が応募してくるか、この先どういったメンバーが受賞するか、先が読めてしまふところもある。北海道の演劇創造を活発にしていくためにはより高いレベルを目指す必要があると考え、道内外の劇作家が競い合うことで、次代を担う劇作家を発掘したい」という趣旨を明確にしました。主催側としては、これを機に道内の劇作家が発奮してくれることを、多いに期待しています。

戯曲は、カレーと一緒に誰にでも書けます。もちろん、カレーという料理を知らない人にカレーは

作れないのと一緒に、芝居という概念を理解していない人には書けないでしょう。でも大抵の人が書けます。ところが美味しいカレーは誰にでも作れるわけではない。そして美味しいには個人差があるのですが、「世間的に、まあこれは美味しいカレーだろう」というレベルはあると思う。正直に言えば、全ての候補作にはこの「世間的に、まあこれは美味しいカレーだろう」というレベルのものが出揃ってほしかった。であれば、審査員同士の味の好みのレベルでの討論が起きたと思うのです。今回は「美味しい」「不味い」の討論し

かできなかったのが残念です。「美味しい」のは判つてるけど、どれが一番美味しいんだ？ という討論がしてみえなかったです。誰でも書けるので一度応募してみてください。

——今回は、応募者の約7割が30代〜40代。戯曲を書いた経験のある人が多数でした。

初めて書く人もほとんど応募してほしい。好きに書けばいいので



大賞『悪い天気』
受賞作家コメント

藤原達郎（ふじわら たつろう）

1980年生まれ。岡山県出身。九州大谷短期大学 国文学科 演劇・放送コース卒業。文学座附属演劇研究所卒業。福岡県北九州市の劇団「飛ぶ劇場」に所属。自身の団体「大体2mm」にて作品を発表。

僕の戯曲には、ストーリーらしいストーリーがないまま、ずっとおしゃべりが繰り返されるものが多くて、もちろん、僕はそれが面白いと思って書いているのですが、戯曲の賞で評価はされにくいだろうなと思っていました。それが今回、他の人にとっても面白いんだ、という自信につながりました。

「悪い天気」は僕も上演しておらず、先日リーディング公演で、初めて俳優の身体を通した台詞を聞きました。リーディングなので台本は持っているのですが、動きもあり、タイミングを重視した上演をしてくださったので、やりとりの面白さを感じることができました。短い稽古期間であそこまでのものをつくり上げてくださった、演出の前田司郎さんと、北海道の俳優のみなさんには感謝の言葉もありません。来年の本公演も楽しみにしています。

すが、戯曲の形式をある程度踏襲して書いたほうが、より多くの人に読み取ってもらえる可能性がありそうです。何か「ちょっと良い話」にしなくていいので、書きたいものを書いてほしいです。

——当初、リーディング公演は大賞作品のみを予定していましたが、優秀賞、優秀賞候補も含め4作品を、前田さんの演出で上演していただきました。

審査員がどのような作品の中から大賞作品を選んだのか、そこを観てもらったほうがいいだろうと思ひ、4作品の上演を提案しました。できるなら、最終選考の7作品全てをリーディングしたかったです。優秀賞候補の2作品は20分の上演でしたが、雰囲気は伝わったと思います。

——今回の北海道戯曲賞は2カ

平原 慎太郎

Shintaro Hirahara

special
interview

この人に注目
「ダンサー・振付家」

北海道小樽市出身のダンサー、平原慎太郎さん。バレエ、ヒップホップ、コンテンポラリーダンスのキャリアを経て、力強く繊細な、独自のムーブメントを生み出す身体を確立し、多くの振付家の作品に参加してきました。

自身が主宰するカンパニー「OrganWorks」で国内外問わず活動を行うほか、ソロ名義の「NOCON」、北海道の仲間と結成した「瞬project」でも活動。大植真太郎主宰「C/Ompany」や近藤良平主宰「コンドルズ」にも参加しています。

また、近年は音楽や美術などとコラボした、斬新なアイデアでの作品づくりを行い、次世代のパフォーミングアーツを牽引する存在として注目されています。



「象の牙の塔」 撮影/Haru

—近年の活動について教えてください。

ダンサー、振付家、ワークショップ講師として活動していますが、特に振付家としての活動が増えています。ダンス作品だけでなく、芝居の動きの整理(ステー징)や、CMのアニメーションの振付等も行っています。また「OrganWorks」の活動が平成26年から本格化し、新潟や札幌などの地方都市でも上演するなど、活動が広がっています。

—ダンス作品においては、ダンサーであり、振付家であり、演出家でもある、という立場ですね。

今は、その三つが良いバランスになっていると感じています。自分は死ぬまで「ダンサー」で、日常生活の一部に位置しています。「振付家」は指導、他者のため、という気持ちが強いです。そのために身体の構造などを勉強しています。「演出家」としては、「自分は作家としてどうなのか」ということと向き合い、悩み戦っています。「作家」としては、メッセージがある作品、言葉ではなく身体で発言できる作品を目指しています。意見や主張を踊りで濁すような真似はしない作家でいたいのです。

ダンサーとしては、20代の頃に培った努力が今、結実しようとしているのを感じます。この手応えを逃がさず、真摯に踊りと向かい合っていきたいです。

—平成26年度は、小樽文化賞文化奨励賞を受賞。北海道での公演やワークショップも行われました。

これからも「北海道を愛しながら外に出た人間」という立場で、俯瞰した発言や行動を保ちつつ、北海道に関わりたい



「ボレリッシュ」 撮影/Haru

と思っています。特にコンテンポラリーダンスシーンにおいては、仲間たちと何も無いところからスタートして継続してきたことにより、既存のラインとは違う、新たなムーブメントが生まれました。この良い流れと、北海道の人間の独創的な発想を壊さずに、世界に通用する質になるまで高め合っていきたい。「刺激を与えられる立場」が理想です。今は得てきたことを還元するタイミングと感じるので、北海道でもさまざまな活動ができればと思っています。

◎公演予定
OrganWorks [TSURA]
5月4日(月)～6日(水) 会場/シアターラム(東京都世田谷区)
OrganWorks 専用チケット受付サイト <http://peatix.com/event/75256>
5月16日(土)
会場:生活支援型文化施設コンカリーニョ(札幌市西区)
問い合わせ:NPO法人コンカリーニョ ☎011-615-4859

平原 慎太郎(ひらはら しんたろう)
1981年生まれ。2001年、WS受講なども兼ねてヨーロッパ7カ国を旅し、生活習慣、歴史観、建築物、美術芸術など西洋の文化を自身の目と耳と肌で学ぶ。その後ダンサーとしてのキャリアを始め、2003年、スペイン振付家Carmen Wernerの振付作品に参加したのを皮切りに、国内外の振付家作品に参加するようになる。2004年、金森稜率いるNoismの立ち上げメンバーとして、全公演に参加、主要パートを踊る。2007年にフリーランスに転身し、2009年に「OrganWorks」の名義で個人での活動を始める。以降、大植真太郎のプロジェクト「C/Ompany」、近藤良平率いる「コンドルズ」に参加。2011年、KIMDC(コリア国際モダンダンスコンペティション)にてベスト振付家賞受賞、また振付作品はゴールド賞を受賞。2013年、「OrganWorks」の活動を本格化し、年間に2本の新作公演を企画運営。また同年文化庁新進芸術家海外研修制度でスペイン、マドリッドへ9カ月研修員として派遣。2014年に帰国、「OrganWorks」にダンサーを迎え、ダンスカンパニーとして活動を開始。

標としており、来年度は大賞作品の舞台化に取り組みます。来年度以降も戯曲賞自体は実施していきたいと考えていますが、舞台化については、何年かごとに実施できればと考えています。継続することで応募数が増え、受賞者が活躍することで賞自体の知名度も上がります。岸田國士戯曲賞がなんだかベテランの賞のようになってますから、北海道戯曲賞が新人の登竜門的な存在になってくれれば嬉しいです。誰でも応募できますしね。北海道に住んで無くていいんだから。勝手な提案ですが、賞に特定の傾向が付かないよう、審査員も2〜3年の任期で入れ換えるのがいいと思います。審査員がまるごと変われば、今回は受賞を逃したタイプの作品が評価されるかもしれない。在野の劇作家に門戸を開いた戯曲賞、北海道戯曲賞が演劇界にとって、なくてはならない存在になってほしいですね。

—今の時代には、どんな戯曲が書かれるべきだと思いますか？
僕自身は、50年後、100年後も変わらず受け入れられる戯曲を書きたいと思っています。今日性を重視していません。時代を映す鏡であるよりも、人間を書きたい。20年後、あるいは死んでからやつと受け入れられるのでもいい、もしかすると全く受け入れられないかもしれない、でもそんなことに関係なく「どうしても書きたいから書く」、それが作家だと思っています。まあ、売れてお金持になりたいですが。ただ、それは僕の理想であって、別に真理ではない。色んな作家がいると思います。何が一番良いということでもない。何でも受け入れられるのが戯曲です。特に希望の大地の戯曲賞は、「何でもOK、あなたが面白いと思うものを書いて応募してください」という戯曲賞です。ね。

—リーディング公演では、日程の都合で事前に出演俳優が決まっています。本公演に向けて

希望の大地の戯曲 北海道戯曲賞 受賞作品リーディング公演

平成27年2月12日(木)・13日(金)の2日間、前田司郎さんの演出により、北海道戯曲賞受賞作品のリーディング公演が行われました。大賞『悪い天気』、優秀賞『乗組員』の2作品の公演に加え、日替わりで、優秀賞候補に挙がった『あなたとの物語』『終末の予定』をそれぞれ20分ほど上演。来場した方々に、今年度の戯曲賞大賞がどのような作品の中から選ばれたかをお披露目されました。

各公演後には、前田さんの司会で、受賞作家、出演俳優、北海道演劇界から参加した審査員でもある齋藤歩さん(札幌座チーフディレクター)などとのアフタートークがあり、講評や作品世界の解釈などの話題で盛り上がりしました。

初日は公演後、授賞式を実施。九州から来道した藤原達郎さん、島田佳代さんに、それぞれ記念品と賞金が渡されました。



は改めて選考することになりますね。
2〜3日かけてオーディションを行うつもりです。できれば、演劇初心者にも参加してもらいたいのです。

—北海道の俳優はオーディション経験が少ないので、勉強のためにも、どんどんチャレンジしてほしいと考えています。それでは来年度の舞台づくり、どうぞよろしく願っています。

海辺のまちにキラリと光る文化の拠点を創り出す人たち

【浦河町】

サラブレッドの産地であり、漁師町でもある浦河町は、日高管内の古くからの中心地。新しいものを受け入れる都会的な気風があるといわれます。映画、音楽、美術などの文化を深く愛し、独自の方法で守り育てる活動が、全国的にも注目されています。



Urakawa

映画館のあるまち、であり続けるために

大黒座

国道から港へ向かってのびる道を進むと、映画のポスターが窓いっぱいに見える銀色の建物「大黒座」が現れます。館主の三上雅弘さんと奥様の佳寿子さん、お母様の雪子さんの3人で経営するミニシアターです。創業は大正7年、雅弘さんは4代目に当たります。

雅弘さんは、映画が一番の娯楽だった時代を見てきました。「町には何軒も映画館があって、日高線に乗っていた人が、みんな映画を観に来た人だったこともあります。港からは、イカ釣り船の漁師や船員たちが銭湯帰りに映画を観に来ていました。毎日来るので『また同じのを見たくない』と言われて、札幌からごっそりフィルムを持ってきたこともありましたよ」

現在、町の人口は約1万3千人で、映画館経営には厳しい状況です。唯一残った大黒座を応援したいという有志で立ち上げた「大黒座サポーターズクラブ」による後援上映や、ジャズベーシストの立花泰彦さん、漫画家の鈴木翁二さんなど町へ移住した文化人も自ら企画を立て、館でのライブコンサートや「大黒座まつり」などのイベントを開催しています。ちょうど映画を観に来ていた立花さんは「ふらっと足を運んでもらえる環境づくりをしたい」と話してくれました。昔の大黒座では、映画を上映するだけでなく、芸人やアーティストによる舞台も行われていたのだとか。かつての芝居小屋のような役割が、現代に復活しています。

映画館が文化と人の拠点としてあり続けることを、大切に思う町の人たち。その手で守られてきた大黒座は、寄り合い所のようなゆるい雰囲気や気負わないところが魅力。看板猫チビと今日もゆったり、お客さんを待っています。

●浦河郡浦河町大通2丁目18
☎0146-22-2149 <http://www.daikokuza.com>
※上映スケジュールや料金はHPでご確認ください



看板猫のチビ



座席数48席。座面がスライドする木製の椅子は、旭川家具の特注品



大黒座4代目館主 三上雅弘さん

本屋がないなら、みんなでつくろう！ 六畳書房

昨年11月、住宅街の古い一軒家に、浦河町地域おこし協力隊として活動する武藤拓也さんが中心となって運営する「六畳書房」が開店しました。ここでは「一口店長」として支援した人が選んだ本など、新刊書約800冊を販売しています。

浦河町では平成24年に書店が姿を消し、以降、日高東部には1軒も書店がないという状態に。イベントで新刊書を販売し手応えを感じた武藤さんは、札幌・くすみ書房の久住さんの助言をヒントに、まちの人自らが本を選ぶ「コミュニティー本屋」の形を模索し、六畳書房の開店にこぎ着けました。

現在、一口店長は町内外に100名ほど。武藤さんは絵本から小説まで、選ばれた本から様々な切り口で本棚を作りあげています。「あくまでも自分は店番。選んだ本と、思いと、お金を預かる役目です」。次世代の本屋の姿が、ここにあるのかもしれない。

●浦河郡浦河町堺町西4丁目4-40 ☎080-4046-8474 (武藤拓也)
営業日：火曜のみ(祝日の場合でも営業) 営業時間：13:00~22:00
<http://kazete-urakawa.tumblr.com> ※「一口店長」は一口5000円で募集中



六畳書房店番 武藤拓也さん

ライブで聴く音楽の素晴らしさを伝えたい

音楽座

浦河町総合文化会館を会場に行われるコンサート。その企画・運営をしているのが地元の団体「音楽座」です。平成6年、ジャズ愛好家たちでジャズコンサートを企画したのをきっかけに結成し、これまで国内外の名だたるミュージシャンを招聘してきました。「浦河は通勤族が多く、常に新しい人が来て新たな文化を運んでくる」と、副会長の山田暁史さん。最近は沖縄民謡や、浦河在住のミュージシャンらによる地元発信のジャズなども取り上げています。

特に、子どもたちにライブ演奏を聴かせたいと、町内の中学生を招待し続けているのだとか。「本物の音楽に生で触れるからこそ、伝わる大事なものがある」という思いで続けた活動は20年を迎え、新たな時代へと受け継がれていきます。

●浦河郡浦河町大通3丁目52 総合文化会館内
☎0146-22-5000 (会長・下川正啓)



アルバムが4度のグラミー賞に輝いたジャズシンガー、ダイアン・リヴァス(2000)



タナ・リード・クインテット&カーメン・ランディのメンバーと、音楽座メンバー(1996)



音楽座副会長 山田暁史さん

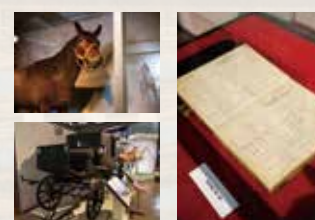
column

馬と、馬のまちの歴史を知る 馬事資料館

国内有数の軽種馬生産地・浦河町の、馬と歩んだ歴史がわかる資料館です。入り口の「優駿の門」の上で躍動する32頭の鉄の馬は、金属造形作家・亀倉康之の作品で、館内には馬の素描も展示されています。浦河の名を知らしめた五冠馬・シンザン号の資料も多数あり、その父である種牡馬ヒンドスタン号の剥製は、馬の全身剥製としても珍しく学術的な価値が高いものです。

町の馬産地としての歴史は、明治40年、政府が西舎村(現浦河町)に日高種馬牧場を設置したことに始まります。先に開設されていた新冠牧場とともに、ドサンコの改良や軍馬生産の目的でサラブレッド種牡馬による繁殖が行われ、その後競走馬生産へと発展しました。血統の履歴や当時の迎賓馬車の現物も展示され、競馬ファンはもちろん馬の歴史を知りたい人にも貴重な場所です。

●浦河郡浦河町字西幌別273-1 ☎0146-28-1342 (浦河町立郷土博物館)
開館日：9:00~16:30 休館日：月曜、祝日、年末年始 入館料：無料



表紙作家の紹介



風間 雄飛 美術家

Yuhi Kazama

1982年 北海道上川郡東川町生まれ/札幌市在住

はいからさん

【個展】

- 2014年 「ろてん」(ギャラリー犬養/札幌)
- 2013年 「どんてん」(トーキョーワンダーサイト本郷/東京)
「おちかのこさいさい」(JRタワーART BOX/札幌)
- 2012年 「おとぼけくん」(salon cojica/札幌)
「だれかさんてん」(TO OV cafe/札幌)
- 2011年 「side-B」(ギャラリー犬養/札幌)
- 2009年 「風間雄飛展」(さいとうギャラリー/札幌)

【グループ展等】

- 2015年 「第6階山本鼎版画大賞展」
(上田市立美術館/長野)
「Visual contents XXVI 視覚の目次」
(リベスタギャラリー創/東京)
- 2014年 「CUTE」
(北広島市芸術文化ホールギャラリー/北広島)
「AOMIRI PRINTトリエンナーレ2014」
(青森市民美術館/青森)
- 2013年 「質感—Sensitivity to Texture—」
(札幌大通地下ギャラリー500m美術館/札幌)
- 2012年 「トーキョーワンダーウォール公募2012入選作品展」
(東京都現代美術館/東京)
- 2011年 「樽前arty 2011」(ギャラリーLEO/苫小牧)
「第79回版画展」(京都市美術館/京都)
「サッポロ未来展～ノマディックサーカス～」
(北海道近代美術館/札幌)

2010年 「あおり国際版画トリエンナーレ2010」

- (国際芸術センター青森/青森)
- 「IWAKI ART トリエンナーレ2010」
(ギャラリーいわき/福島)
- 「Junge Kuenstler aus Nord Japan」
(hinterconti/ハンブルク)
- 「WE ARE THE ISLANDS」
(Kunstraum Kreuzberg/Bethanien/
ベルリン)

2008年 「第5回池田満寿夫記念芸術賞」

- (銀座洋協ホール/東京)
- 「TRACE」(養清堂画廊/東京)

【受賞】

- 2014年 「AOMIRI PRINTトリエンナーレ2014」(優秀賞)
- 2012年 「JRタワーART BOX2012」(優秀賞)
- 2010年 「あおり国際版画トリエンナーレ2010」(スポンサー賞)
- 2008年 「第5回池田満寿夫記念芸術賞」(佳作)

【滞在制作等】

- 2013年 あきる野市アーティストインレジデンス/
アートスタジオ五日市
- 2009年 第3回秀桜基金留学賞
(この賞を受け1年間ドイツ・ベルリンに滞在)



◎北海道文化財団アトスペース企画展

風間雄飛展「おかわりさんたろう」

会期:平成27年3月17日(火)～5月15日(金) 9:00～17:00

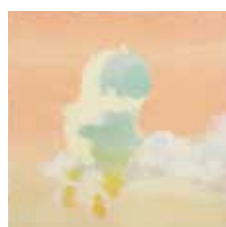
休館日:土・日・祝日 ※都合により臨時休館する場合があります。

会場:北海道文化財団アトスペース (札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル3F)

入場料:無料



おむかえ



みちくさ



すたごら



ろてん

フォト・エッセイ⑧

文/写真 近藤 良平 Ryohei Kondo



北海道にて出会う

北海道は、おかげさまで身近になった。飛行機でビューンと飛んでくと、「あら不思議！ここはどこ！」というイキオイで到着する。先日も女満別空港から少し車で走るともう、広すぎる風景にやられてしまい、意味なくすべてを諦めなくなる。「おー！なんて無駄だったんだ！」とか勝手に、もだえてしまう。そして毎回の「出合い」にカラダはものすごく興奮することとなる。ここで言う出合いとは、動物のこと。しかし動物に遭遇するために北海道を訪れている訳ではない。なのに会おう、出会ってしまおう。唐突に出会う代表は、「鹿」でしょう。

北海道で見る鹿たちは、いつも獅子神のようにスーッと立ってこつちをみている。2年前は、旅館の窓から朝方にシマフクロウを見た。そんなのあり得るのか！という大きさ。そして先日は、初めてサケの遡上をみた。実際目撃すると物体が移動しているようだった。



近藤 良平

(こんどうりょうへい)

ダンサー・振付家・コンドルズ主宰

1968年東京都出身。ペルー、チリ、アルゼンチン育ち。第4回朝日舞台芸術賞寺山修司賞受賞。NHK「サラリーマンneo」、NHK連続テレビ小説「てっぺん」オープニングなど振付・出演。野田秀樹演出、NODA MAPの舞台「THE BEE」で役者デビュー。桜美林大学、横浜国立大学、立教大学非常勤講師。著書に『近藤良平という生き方』、『エンターブレイン』、『からだと心の対話術 14歳の世渡り術』(河出書房新社)がある。北海道文化財団アート体感教室事業のアーティストとして、道内各地の子どもたちとワークショップを行っている。愛犬家。

た。間違いなく北海道は、心地よく広い。ざくつと印象。北海道は、人だけでなく動物たちも土地も楽しそうである。20代の頃は「北海道ってうらやましいなあ」なんて思っていました。今は違う。こんなステキ北海道を、思い浮かべると、案外とそばにある気がする。自分のからだの庭には、馬もいれば牛もいて、にぎやかだ。北海道のおかげだ。ひとつ、まだクマには遭遇していません。

財団事業インフォメーション（平成27年3月）

公益財団法人北海道文化財団事業へのご支援のお願い

北海道文化財団では、財団設立以来、道民の皆様が自主的に取り組まれる文化活動を支援させていただき、道民の皆様が優れた芸術文化に触れていただく機会を広く提供する事業、文化活動や文化交流の促進に関する事業、文化情報を提供する事業などを行ってまいりました。

しかし、これらの事業を行っていくためには、多額の経費が必要となります。

当財団では、北海道が設置している「北海道文化基金」からの運用益や内部基金の運用、さらに公的機関や民間団体等から資金提供をいただき、事業を実施するとともに、効率の良い運営や経費の節減に努めておりますが、文化活動を取り巻く環境は非常に厳しいものとなっております。

当財団では、これからも安定的に道内における文化活動の振興に取り組むため、広く皆様からご支援をいただくための寄附制度を設けております。

何卒当財団の事業趣旨にご理解とご賛同をいただき、ご寄附をお寄せいただけますようお願い申し上げます。

皆様からお預かりいたします寄附金は、当財団の「寄附金等取扱規定」により、有効に使用させていただきます。

詳細は、当財団のホームページ（<http://haf.jp>）でご案内しています。



アートシアター鑑賞事業

●平成28年度公演企画募集

北海道文化財団では、平成28年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）に道内3カ所以上で上演可能な音楽、演劇、舞踊、伝統芸能等の舞台芸術の公演企画を募集します。

※対象とならない分野：演歌、キャラクターショー、マジックショー、中国雑伎など

【応募条件】

平成28年度内に道内3カ所以上で上演可能な公演企画とします。なお、公演企画の応募は道内アーティストプログラムと道外アーティストプログラムに区分します。

・道内アーティストプログラム

道内で活動するアーティストによる舞台芸術（音楽、演劇、舞踊、伝統芸能等）の公演です。1公演企画団体につき4企画まで応募可能です。

・道外アーティストプログラム

道外で活動するアーティストによる舞台芸術（音楽、演劇、舞踊、伝統芸能等）の公演です。1公演企画団体につき2企画まで応募可能です。

【応募後のスケジュール】

時期	内容
平成27年6月下旬	「平成28年度公演企画資料」（冊子）の発行 応募のあった公演企画を掲載した冊子を作成し、道内の市町村や文化ホール等に配布します。
平成27年7月2日（木）、 7月3日（金）	「北海道舞台芸術情報フェア2015」の開催 会場：札幌市教育文化会館講堂ほか 道内市町村や文化ホール等の担当者に対して、公演企画の説明が可能です。（昨年は公演企画団体59団体、市町村・文化ホール等の担当者88名が参加しました。）
平成27年10月下旬 （予定）	「上演予定リスト」の選定 道内市町村や文化ホール等へのアンケート結果などを参考に応募のあった公演企画の中から、平成28年度に道内で上演する公演企画を選定します。
平成28年3月上旬 （予定）	「公演地」の選定 道内市町村や文化ホール等に募集を行い、公演地を選定します。

募集要項・申込方法：詳細は、当財団のホームページ（<http://haf.jp>）でご案内しています。
問い合わせ：（公財）北海道文化財団 ☎011-272-0501